

第2期みらいづくり隊員が決意を表明！



水源の里だより

みらいづくり隊 なう!

＜水源の里振興室から＞

市内に移住した「みらいづくり隊」の第2期隊員が、地域の支援活動とともに、それぞれの個性や経験を活かした活動を4月から開始しています。
第1期隊員と同様、共に地域を盛り上げていく仲間として、市民のみなさんも「みらいづくり隊員」を応援してください。

やぎゅう
柳生 のびさん
(写真左)

兵庫県神戸市から曲谷へ

幼少期に大自然の中で生きた経験を持ち、これまで野外活動や保育・教育関係の仕事に携わる。

隊員を目指した理由

人と自然が一体になることの素晴らしさを多くの年代の方々に伝えたい。

この美しい米原が皆様により愛されるまちになるよう、努めていきます！

ちかなり ひでき
近成 英樹さん
(写真中央)

大津市から上板並へ

環境学習・自然体験活動に関する研究を修了後、公共施設の指導員として環境学習や自然体験・ものづくり体験の企画・運営、植生管理、生物調査等の業務に携わる。

隊員を目指した理由

地元の方々と積極的に関わりながら手ほどきを受け、それを次世代へと伝承したい。

自ら森の恵みで暮らしつつ、その魅力を伝える手法を考え発信します！

かとう たつま
加藤 竜真さん
(写真右)

北海道江別市から上板並へ

愛知県豊橋出身。卒業したばかりの北海道の大学では自然保護、狩猟管理学を修学。

隊員を目指した理由

獣害問題の解決方法を探るとともに、農林業の担い手増加にも貢献したい。

北海道から来ました！狩猟が専門です。よろしくお祈りします！

施行から4年目を迎える

「水源の里まいばら」って?

伊吹北部地域の指定地域では

元気づくりのモデルとなる

取り組みが進められています。

「水源の里まいばら」って?

びわ湖の水源である米原市全域の集落のことです。

市では、平成21年6月に「水源の里まいばら元気みらい条例」を制定しました。この条例は、過疎・高齢化が進む集落が今後も元気でいられるように、様々な取り組みを進めるための方針を定めたもので、米原市全域の集落を「水源の里」と位置付けています。

びわ湖の水源である米原市で生まれた水の恵みは、市民はもちろん、水の流れの下流に位置する人や企業、動植物にも利用されているのです。

みらいづくり隊員はなにをするの?

姉川上流の8つの集落に移住し、「地域活性化の原動力」として様々な活動を行います。

姉川上流に位置する甲津原、曲谷、甲賀、吉槻、上板並、下板並、大久保、小泉の8つの集落は、市内の他の集落に先駆けて過疎・高齢化が進んでいる地域です。市はこの地域を、地域からの申し出に基づき「重点施策対象地域」として指定し、様々な取り組みへの支援を行っています。

隊員は、そうした取り組みの原動力となるとともに、隊員の任期である2年が終了した後も引き続き地域に住み続けられるように、収入を得るための仕事づくりや就業に向けた準備活動も併せて行っています。

活動情報は、市公式ウェブサイト内「水源の里まいばら」で随時発信していきます。
<http://www.city.maibara.lg.jp/>



指定地域ではどんな取り組みが進んでいるの?

空き家活用や体験交流イベントが行われています。

指定地域では、集落が連携して結成された「東草野まちづくり懇話会」と「姉川せせらぎ懇話会」のふたつの団体を中心となり、集落の活性化のために活動を行っています。このふたつの懇話会では、過疎化により地域内に増えた「空き家」を資源として活用し、そこに移住希望者を迎え入れようという取り組みや、地域の魅力を知ってもらうための体験交流イベントを中心として、情報発信やPR活動が進められています。みなさんも、ぜひご参加ください。



姉川せせらぎ懇話会も協賛している大久保区セツブンソウ祭りが3月17日、18日に行われました。初日はあいにくの天候でしたが、2日間で600人ほどが参加され、山野草や食事、切り絵などを楽しまれました。

写真左▶第1期みらいづくり隊員の早川さんも切り絵講師として参加 写真右▶餅の振る舞いの際は行列ができていました。

お問い合わせ 水源の里振興室 (伊吹庁舎) ☎58-1121 📠58-1630